



Stephen R. Covey

フランクリン・コヴィー・ジャパン編

スティーブン・R・コヴィーの
至言

〈新訳〉

読者の皆様へ

スティーブン・R・コヴィー『7つの習慣 成功には原則があった!』がアメリカで発刊されてから20年以上の月日がたちましたが、今なお、組織を越え、国を越え、文化をも越え、世界中の人々に親しまれています。また昨今さらに多くの方々が、この書物を手にされています。

加えて、個人の人生のバイブルとしてだけではなく、企業においても「人材開発」「マネジメント」の分野で幅広く導入され、新入社員から管理職そして経営層にまで、実に幅広く採用され、世界中のビジネス・パーソンの基盤となる人材開発プログラムとして認知されてきました。

それは、様々な分野や世界で混迷が続くこの世の中が、うわべのテクニックだけではなく、より本質的なソリューションを求めているからではないでしょうか。

コヴィー博士はその後、『7つの習慣』だけでなく、『第8の習慣「効果」から「偉大」へ』、『7つの習慣 原則中心リーダーシップ』など、人生の羅針盤として多くの人々に愛され続けている書籍を提供してきました。どの書籍においてもコヴィー博士の言葉は印象深く、私たちの心にずっしりと響いています。

その理由は、すべての書籍に共通している「成功のためのノウハウ」「うまくいくためのスキル・テクニック」といった表面的なノウハウを紹介するものではなく、人々

の内面に問いかけ、人格と能力の双方を長期的に磨き、成長し続けるための原則の重要性を説いているからです。つまり長年にわたって親しまれてきたのは、コヴィー博士のメッセージが、時代や場所を選ばない普遍的な原則だからではないでしょうか。

本書は、『7つの習慣』をはじめ、コヴィー博士の代表作である7つの書籍から、テーマごとにそのエッセンスを抜粋し、『スティーブン・R・コヴィーの至言』として再編集いたしました。いずれの言葉も、私たちの内面に今なお迫り、まさに「至言」と呼ぶにふさわしい内容となっています。

原則に基づいたそのメッセージを探求し、皆さまのビジネスや生活に取り入れ、継続的に取り組んでいただくことができれば、より本質的な「意義ある」人生に導かれることをお約束します。

なお、できる限り原文の意を損なわないように、英文を併記しました。日本語訳の至らない点につきましては、この原文を参照いただければ幸いです。

2010年9月吉日

フランクリン・コヴィー・ジャパン
取締役 竹村富士徳

読者の皆様へ	2	原則中心のリーダーシップ	33	第3章 内なる声に従う	59	第4章 リーダーシップ	79
目次	4	原則中心の人生	34	ミッション・ステートメント	60	リーダーシップとは	
第1章 成功の原則	11	人格の力	35	ミッション・ステートメントを 書くプロセス	61	正しいことを行うこと	80
原則は場所であり、 価値観は地図である	12	組織における原則	36	ミッション・ステートメントが もたらすバランスと調和	62	リーダーの仕事	81
地図というパラダイム	13	対立する脚本	37	組織におけるミッション・ ステートメント	63	リーダーシップの 4つの役割	82
原則を中心に据える	14	原則から学ぶ	38	あなた自身の目標	64	先にリーダーシップ、 後にマネジメント	83
世界を見るレンズ	15	人生という庭	39	変わらない中心を持つ	65	想像力と良心による 自己リーダーシップ	84
農場の法則	16	選択の集積	40	自覚、原則、良心、想像力	66	リーダーシップのスタイル	85
個性主義の蔓延	17	真北の原則	41	押しつけられたミッション・ ステートメント	67	人間関係における リーダーシップの原則	86
プロセスを踏む	18	責任の原則	42	あなたのボイス	68	生産者、マネージャー、 リーダーの役割	87
成長の連続体	19	第2章 流れを変える	43	ボイスは成長する	69	リーダーシップと マネジメント	88
退行の連続体	20	インサイド・アウト	44	ビジョンとは 第一の創造である	70	左脳でマネジメント、 右脳でリーダーシップ	89
棒の片側をつかめば 反対側も持ち上がる	21	パラダイムを変える	45	自分自身に関するビジョン	71	戦略的リーダー	90
急性の痛みは慢性的な痛みから 派生する	22	自分自身から変わる	46	熱意は選択の力に 根ざしている	72	本来の動機	91
選択の自由	23	選択の結果	47	良心が私たちを導く	73	ユニバーサル・ミッション・ ステートメント	92
自然的権威	24	自分自身の反応で傷つく	48	家族のミッション・ ステートメント	74	川釣りを教える	93
道徳的権威	25	率先力	49	なぜ働くのか	75	人はモノではない	94
価値観と原則	26	責任	50	ビジョンとは人を動かす力	76	人が持つ価値と潜在能力	95
道徳的な方向感覚	27	最大の結果を生む投資	51	ニーズを一致させる	77	環境を育む	96
伝統・流行・価値観が 良心を鈍らせる	28	ひとりの選択から始まる	52	自分をごまかすのをやめる	78	模範を示す	97
原則に基づいた人生	29	快適ゾーンを超える	53			率先して正しいことを 実践する	98
じっくり取り組むべきこと	30	あなたはどのように 生きているのか?	54				
一夜漬け	31	流れを変える人	55				
成熟した人間たれ	32	新たな行動を起こす力	56				
		先に自分の習慣を変える	57				
		後世への責任	58				



第1章
成功の原則

原則は場所であり、価値観は地図である

手法は特定の状況にしか適用できない。しかし原則は深い根本的な真理であり、どんな状況にも適用できる。あらゆる個人、夫婦関係、家族、あらゆる種類の組織に当てはめることができる。こうした真理を習慣として身につけた人は、さまざまな状況に対応できる多様な手法を自分で考え出せるのだ。原則は価値観とも異なる。たとえば窃盗団であれ価値観を共有しているが、ここで言う根本的な原則には反しているのだ。原則は「場所」であり、価値観は「地図」なのだ。

While practices are situationally specific, principles are deep fundamental truths that have universal application. They apply to individuals, to marriages, to families, to private and public organizations of every kind. When these truths are internalized into habits, they empower people to create a wide variety of practices to deal with different situations. Principles are not values. A gang of thieves can share values, but they are in violation of the fundamental principles we're talking about. Principles are the territory. Values are maps.



不正、偽り、卑劣、無駄、凡庸、墮落などが、永続的な幸福と成功の健全な土台になると考える人はいないはずである。原則の定義や実行の仕方についてはいろいろ議論があるだろうが、人間は生まれながらにしてその存在を知り、それを意識しているのだ。

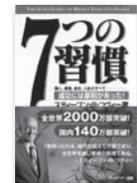
「7つの習慣 成功には原則があった！」

地図というパラダイム

誰もが頭の中にたくさんの地図（パラダイム）を持っている。これらの地図は2つに大別できる。物事のあるがままの姿、すなわち現実を示す地図、そして物事のあるべき姿、すなわち価値観を示す地図。私たちは自分の経験を頭の中の地図で解釈する。地図が正確かどうかを疑うことはめったにない。それどころか、地図を持っていることさえ普段は意識していない。ただ単純に、物事はこうだ、あるいはこうあるべきだと思い込んでいるだけである。自分の態度や行動も、こうした思い込みから生まれているのである。

Each of us has many, many maps in our head, which can be divided into two main categories: maps of the way things are, or realities, and maps of the way things should be, or values. We interpret everything we experience through these mental maps. We seldom question their accuracy; we're usually even unaware that we have them. We simply assume that the way we see things is the way they really are or the way they should be. And our attitudes and behaviors grow out of those assumptions.

例えばシカゴに行く際、シカゴの道路地図を持っていれば、とても役に立つだろう。しかし、その地図が間違っていたとしたら、どうなるだろうか。シカゴという表題の付いている地図が、実は印刷ミスでデトロイトの地図だったらどうなるか。目的地に向かうときのいらだちや効率の悪さを想像することができるだろうか。



「7つの習慣 成功には原則があった！」



原則を中心に据える

生活の中心に正しい原則を置けば、バランスがとれ、まとまりのある、しっかりと安定した生活を送れるようになる。すべての行動、人間関係、決断の基盤ができるのだ。また、自分の肉体、時間、才能、お金、所有物、人間関係、家族など、生活のあらゆるものに対して奉仕の意識が芽生えてくるだろう。奉仕者となってそれらを高貴な目的のために使う必要性、義務を感じるようになるのだ。

When we center our lives on correct principles, we become more balanced, unified, organized, anchored, and rooted. We have a foundation for all activities, relationships, and decisions. We also have a sense of stewardship about everything in our lives, including time, talents, money, possessions, relationships, our families, and our bodies. We recognize the need to use them for good purposes and, as a steward, to be accountable for their use.



原則を中心に置くことにより、安定性は外的な変化や比較、他人からの批判にはびくともしないものになる。それは私たちをミッションの発見へと導き、自分の役割を明確に知る手助けをしてくれる。

『7つの習慣 原則中心リーダーシップ』

世界を見るレンズ

私たちには限界がある。だが限界の境界線を押し広げることのできる。原則が人間の成長を司っていることを理解すれば、正しい原則を探し出せるようになり、学べば学ぶほど世界を見るレンズの精度が上がるのだという確信が持てる。なぜなら原則は不変であり、原則に対する私たちの理解が変わるからだ。原則中心の生き方をすることで、正しい地図が知恵と方向性を示してくれる。それは、ありのままの現在、過去の事実、将来の姿を指し示す地図だ。正しい地図を持てば、どこに行きたいのか、どうしたらそこにたどり着けるのか、はっきり見えてくる。

We are limited, but we can push back the borders of our limitations. An understanding of the principle of our own growth enables us to search out correct principles with the confidence that the more we learn, the more clearly we can focus the lens through which we see the world. The principles don't change; our understanding of them does. The wisdom and guidance that accompany principle-centered living come from correct maps, from the way things really are, have been, and will be. Correct maps enable us to clearly see where we want to go and how to get there.

原則中心の生活から生まれる個人的な力は、自覚と知識を持ち、他人の行動・態度や環境・状況の影響に制限されない主体的な人間の力である。



『7つの習慣 成功には原則があった！』



農場の法則

農場という環境で一夜漬けの仕事がどれほどの愚行であるか、考えたことがあるだろうか。春に種蒔きを忘れ、夏は遊びほうけ、秋になって必死で収穫する、などということがあり得るだろうか。農場は自然のシステムである。必要な務めはきちんと行い、プロセスに従わなくてはならない。種を蒔き、刈り取る。そこに近道はない。

人間の行動や人間関係においても、結局はこの原則が当てはまる。これらもまた自然のシステムであり、農場の法則の上に成り立っているのである。

Did you ever consider how ridiculous it would be to try to cram on a farm — to forget to plant in the spring, play all summer and then cram in the fall to bring in the harvest? The farm is a natural system. The price must be paid and the process followed. You always reap what you sow; there is no shortcut.

This principle is also true, ultimately, in human behavior, in human relationships. They, too, are natural systems based on the law of the harvest.



人の成長も人間関係も自然のシステムであり、農場の法則が支配しているのである。

「7つの習慣 成功には原則があった！」

個性主義の蔓延

今の社会には個性主義が蔓延している。人間の成長に求められる努力という自然のプロセスを踏まなくとも、個人の効果性、豊かで深い人間関係といった生活の質の向上を手っ取り早く楽に達成できると示唆しているからだ。だが、それは実体のない絵空事である。「働かずして金持ちになれる」とそそのかす空約束である。個性主義は成功しているように見えなくもない。だが化けの皮はいずれ剥がれる。

The glitter of the Personality Ethic, the massive appeal, is that there is some quick and easy way to achieve quality of life — personal effectiveness and rich, deep relationships with other people — without going through the natural process of work and growth that makes it possible. It's symbol without substance. It's the “get rich quick” scheme promising “wealth without work.” And it might even appear to succeed — but the schemer remains.

個性主義は、人を欺き騙すものだ。個性主義のテクニックや応急処置的な手法で質の高い生活を手に入れようとするものは、デトロイトの地図でシカゴの場所を探そうとするようなものである。



「7つの習慣 成功には原則があった！」